



〈2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成に向けて、気候変動対策を推進〉

プラスチック製手さげ袋の素材をバイオマスプラスチック 95%へ変更 原材料製造時の温室効果ガス排出量を半減へ^{※1}

まず長崎県内 23 店舗より導入、年内に全国導入予定

日本マクドナルド株式会社(本社：東京都新宿区、代表取締役社長兼 CEO：トーマス・コウ)は、お客様お持ち帰り用のプラスチック製手さげ袋(以下、レジ袋)をバイオマスプラスチック^{※2}95%の素材へと変更し、地球環境により配慮したサステナブル素材化を推進いたします。まず長崎県内全店舗(佐世保基地店を除く 23 店舗)にて 5 月 14 日(水)の導入完了を予定、今後順次全国での導入を予定しています。



マクドナルドは、グローバル全体で 2050 年までに地球温暖化の原因とも言われている温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「ネット・ゼロ・エミッションの達成」を目標に掲げています。この目標達成に向けた取り組みのひとつとして「2025 年未までに、お客様提供用の容器包装類を、再生可能な素材、リサイクル素材または認証された素材に変更」というコミットメントを掲げており、今回のレジ袋の変更もその一環となります。

現在日本国内のマクドナルドでは、バイオマスプラスチック 50%のレジ袋を使用していますが、このたび長崎県内にてバイオマスプラスチック 95%の新たなレジ袋を導入いたしました。これにより現行のレジ袋と比較して、年間の原材料製造時の温室効果ガス排出量約 3,900t の削減を見込んでおります。今回の素材変更により、生物由来の資源(バイオマス)を活用した環境商品に付与される「バイオマスマーク」が 50 から 95 に変更になるとともに、レジ袋の印字を環境カラーであるグリーンに変更いたしました。ご利用いただくお客様には、レジ袋の使用感等は変わらず今までと同じように商品をお持ち帰りいただけるだけでなく、ご負担なく温室効果ガス排出削減のアクションにもご協力いただけます。今後順次、全国の店舗への拡大を予定しています。また、新レジ袋の導入に伴い、長崎県内でのみ試験的に実施しておりましたレジ袋の有償販売を 5 月 13 日(火)で終了し、5 月 14 日(水)より無償提供させていただきます。温室効果ガスの排出実質ゼロを目指すため、お客様には引き続き簡易包装にご協力いただけますようお願い申し上げます。

すでに、2022 年 10 月より、ストロー、スプーン、フォーク、ナイフ、マドラーを、2023 年 12 月よりサイドサラダ容器を、2024 年 11 月よりマックフィズ[®]やマックフロート[®]などに使用されているコールドドリンクのカップおよびふたを、同 12 月よりマックフルーリー[®]の容器を環境に配慮した素材に変更しており、今後も更なるサステナブル素材化を推進してまいります。

〈今までの取り組み〉

2022年10月

- ストローを紙製^{※4}に
- スプーン、フォーク、ナイフ、マドラーを木製に



2023年12月

- サイドサラダ容器を紙製に



2024年11月

- コールドドリンク用カップ^{※3}をバイオマスPPIに
- コールドドリンク用ふた^{※3}をリサイクルPETに

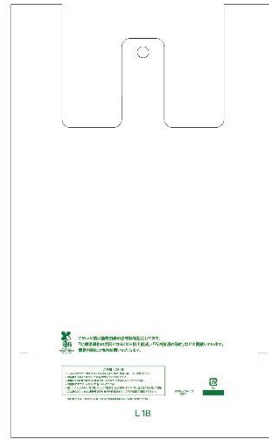


2024年12月

- マックフルーリーの容器を紙製に
- マックフルーリー用スプーンを木製に



<新レジ袋イメージ>



マクドナルドは、変化する社会やお客様のニーズに柔軟に対応し、進化を続けます。そして、持続可能な社会の実現に向けて取り組みながら、おいしさと笑顔を地域の皆さまに「ご提供してまいります。

- ※1：従来のレジ袋と新レジ袋の製造時に排出される年間の温室効果ガス排出量を比較
- ※2：植物などの再生可能な有機資源を原料とするプラスチック
- ※3：マックフィズやマックフロートなどに使用されているコールドドリンク用プラスチックカップです
- ※4：お子様用のストローやマックシェイク[®]用のストロー等、プラスチック製でご提供させていただくものもございます

<報道関係各位のお問い合わせ先>

日本マクドナルド株式会社 コミュニケーション& CR 本部 広報部 下村・飯田 TEL:03-6911-5710

<お客様のお問い合わせ先>

マクドナルド公式ホームページ <http://www.mcdonalds.co.jp/>